

第5・6学年 国語科学習指導案

日 時 平成30年9月27日(木) 5校時
 児 童 第5学年 男6名 女2名 計8名
 第6学年 男2名 女3名 計5名
 指導者 高 橋 歩

〈第5学年〉

1 単元名 和の文化について調べよう

2 学習材名 「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」
 (東京書籍5年)

3 付けたい力と言語活動

〈付けたい力〉

- ◎目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べ読む。
C(1)カ
- 伝えたい内容や目的に合わせ、資料を活用して説明する。
A(1)イ

〈言語活動〉

【視点1】

◎調べて考えたことを基に、和の文化について説明をする。

〈第6学年〉

1 単元名 町の未来をえがこう

2 学習材名 「町の幸福論—コミュニティデザインを
 考える」 (東京書籍6年)

3 付けたい力と言語活動

〈付けたい力〉

- ◎目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読む。
C(1)カ
- 意図に応じて、資料を効果的に活用して発表する。
A(1)イ

〈言語活動〉

【視点1】

◎調べて考えたことを基に、九戸村の未来についてプレゼンテーションを行う。

4 単元について

(1) 児童について

本単元までに児童は4年「くらしの中の和と洋」で引用することを、「報告します、みんなの生活」で分かりやすく報告することを学んできた。また、5年「動物の体と気候」で要旨を捉えることを、「新聞記事を読み比べよう」では書き手の意図を読み取るにあたり新聞記事と写真の関係を学んだ。要旨とは何かを理解することはできたが、根拠を明らかにしながら要旨を捉えることができる児童は少ない。語彙力が低く、説明文のような普段耳慣れない言葉がある文章や長文を読むことに苦手意識をもつ児童も多く、構成や要旨を意識しながら読めるようサイドラインを引くなどして学習を進めたが理解は十分ではない。

また、読書に関しても、月10冊程度読む児童もいれば、1冊程度しか読まない児童もあり、慣れ親しみに差がある。読む本にも偏りがあり、資料を比べながら読むことに不安がある。

(2) 学習材について

本教材は、伝統的な文化に関するものの中でも想起しやすい和菓子を題材とした、序論・本論・結論の構成が明確な文章である。また、和菓子を三つの観点から説明するという構成はその後の調べ学習につなげやすい。さらに、写真や図表などの資料が説明に用いられており、発表の際の資料の活用へとつなげることもできる。これらの特性を生かし、複合的な領域のねらいを達成できるようにしたい。

(3) 指導に当たって

本単元の指導にあたっては、和の文化説明をするために、複数の本や資料を読み、資料を活用して説明することをねらいとする。そのために、教材文の資料と本文の関係や資料の効果を理解する必要がある。序論・本論・結論の構成と要旨を捉えられるよう、「説明文の家」を完成させた上で筆者の意図をより分かりやすく伝えるために資料がどのように提示されているかを、パーソナルワーク→グループワーク→全体で考え、理解させていきたい。

4 単元について

(1) 児童について

児童は5学年の「和の文化を受けつぐ」で、表やグラフ、写真の意図と効果を考えながら読むことを、「伝えよう、委員会活動」で必要な情報を整理して活動報告を書くことを学習した。また、6年「イースター島にはなぜ森林がないのか」では文章の構成を考えながら、要旨を捉えることで、自分の考えをもち意見文を書く学習を行った。説明文の家の構成図を使い、構成を理解できるようになってきた。また、事実と意見の違いを本文の表現に基づいて区別できるようになってきた。しかし、5年生同様語彙力が低いために、文章全体を理解しながら読むことに時間がかかることに加え、自分の考えの根拠を示しながら説得力のある意見文をまとめることも難しい。

おおむね読書が好きな児童が多いが、5年生同様読む本に偏りがある。しかし、6年生になり、歴史を学習したことで読書の幅が広がりつつある。

(2) 学習材について

本教材は、コミュニティデザインという考え方の紹介を中心にしながら、大きな二つの視点に基づいて、事例を挙げて分かりやすく述べている。段落ごとのまとまりも理解しやすく、説明内容に対応する写真や図表も、筆者の主張や事例を理解しやすくするために配置されているため、後の表現活動に活用することができる。これらの特性を生かし、複合的な領域のねらいを達成できるようにしたい。

(3) 指導に当たって

本単元の指導にあたっては、自分たちの町の未来についてプレゼンテーションをするために、教材文を自分の意見を持ちながら読むとともに、九戸村について情報を集める力が必要となる。序論・本論・結論の構成と要旨を捉えられるよう「説明文の家」を完成させた上で、九戸村の未来への考えをもち、自分の発表の目的に合わせて情報を取捨選択しなければならぬ。並行読書を取り入れ、自分の考えをもてるようにするとともに、発表をスムーズに行える

また、見通しをもち、自分は和の文化の何を伝えたいのか明確にしたうえで様々な本や資料を読むことで、必要な情報を選び取る力も付けていきたい。

ようにしたい。また、図表や写真などの効果について想起させ、プレゼンテーションに用いる資料や提案を吟味させることで、授業内容の質を高めるとともに、資料を活用する力を身に付けさせたい。

5 単元の目標

- 和の文化について調べて説明するという目的を意識して文章を読み、進んで調べてみたい課題を探したり、資料の提示の仕方を工夫して話したりしようとしている。
【関心・意欲・態度】
- ◎自分の課題を解決するために、目的を意識して複数の本や文章を比べて読むことができる。【読C(1)カ】
- 伝えたい内容や目的に合わせて、資料を活用して説明することができる。【話・聞A(1)エ】
- 文章のいろいろな構成について理解している。
【伝国(1)イ(キ)】

5 単元の目標

- 自分たちの町の未来に関心をもち、教材文や本、資料を読んで調べ、その内容を相手に伝えようとしている。
【関心・意欲・態度】
- ◎目的に応じて、複数の本や資料を選び、比べて読んでいく。
【読C(1)カ】
- 意図を明確に伝えるために、資料を効果的に活用して発表することができる。【話・聞A(1)エ】
- 目的に応じた文章の構成について理解している。
【伝国(1)イ(キ)】

6 単元の評価規準

	5年	6年
国語への関心・意欲・態度	○「和の文化」に関心をもち、説明をするという目的を意識して進んで学習に取り組もうとしている。	○教材文の内容に関心をもち、プレゼンテーションをするという学習課題を確かめ、進んで学習に取り組もうとしている。
読む能力	◎和の文化の説明を行うために、文章の内容を的確に押さえながら複数の本や文章を比べて読み、必要な情報を選んでいる。(カ)	◎プレゼンテーションを行うために、文章の内容を的確に押さえながら複数の情報を集め、活用することができる。(カ)
話す・聞く能力	○和の文化について調べたことが明確に伝わるように、説明の構成を工夫している。(エ)	○プレゼンテーションの構成を工夫し、場に応じた適切な話し方で話している。(エ)
言語についての知識・理解・技能	○説明文の構成について理解し、説明文の家にまとめることができる。(イ)キ	○説明文の構成について理解し、説明文の家にまとめることができる。(イ)キ

7 単元の指導計画

5年(全13時間)	時	次	時	6年(全13時間)
主な学習活動				主な学習活動
○学習材を通読して初発の感想を交流し、和の文化について調べて説明するという学習課題を確かめる。	1	一	1	○学習材を読んで初発の感想を交流し、九戸村の未来についてプレゼンテーション学習課題を確かめる。
○文章全体を序論・本論・結論に分け、本論を意味段落ごとに小見出しをつける。【視点2】	2	二	2	○文章全体を序論・本論・結論に分け、本論を意味段落ごとに小見出しをつける。【視点2】
○序論と結論の性格を考え、要旨をまとめる。	3 本時		3 本時	○序論と結論の性格を考え、要旨をまとめる。
○本論から3つの観点を捉え、それぞれの説明の仕方を読み取る。	4		4	○本論①の二つの事例から筆者の伝えたいことを読み取る。
○資料の効果を考える。	5	三	5	○本論②の事例から筆者の伝えたいことを読み取る。
○グループで発表する文化を決めて計画を立てる。	6		6	○プレゼンテーションの計画を立てる。
○計画に沿って調べ、情報を集める。	7		7	○複数の資料を読み、必要な情報を集める。
○集めた情報を観点別に整理する。	8		8	
○資料を選択し、内容に合わせて形式を工夫する。	9		9	○情報を整理して提案することや事例を決め、必要な資料を考える。
○情報を選び、説明の順序を考えて構成する。	10		10	○情報を選び、プレゼンテーションの構成を決める。
○発表の練習をする。	11		11	○プレゼンテーションの練習をする。
○発表会を開く。	12		12	○プレゼンテーションを行う。
○発表会を振り返り、意見を交換する。	13	13	○単元を振り返り、九戸村の未来についての自分の考えをもつことができる。	

8 本時の指導

(1)目標

序論と結論の性格を考え、要旨をつかむことができる。

(2)展開

(1)目標

序論と結論の性格を考え、要旨をつかむことができる。

段階	5年生			6年生		
	指導上の留意点 ○支援 ◎評価	学習活動と学習内容	形態	学習活動と学習内容	指導上の留意点 ○支援 ◎評価	段階
導入 5分	○前時までの学習を振り返らせた後、本時の学習のめあてを確認させる。	1 前時に学習した説明文の構成を確認する。 2 本時の学習課題を確認する。		1 前時に学習した説明文の構成を確認する。 2 本時の学習課題を確認する。	○前時までの学習を振り返らせた後、本時の学習のめあてを確認させる。	導入 5分
		序論と結論の性格を考え、要旨をつかもう。				
展開 35分	○序論と結論の性格について確認する。 ○なぜその性格を選んだのか説明できるよう声かけを行う。 ○ペア学習の前に戸田小聞き方名人について確認し、質問の仕方や発表の仕方について基準を示す。 ○学習の進め方を確認し、間接指導に入る。 ○要旨をまとめることを確認し音読させる。 ○結論と要旨の関係に気を付けながら書けるようにする。 ○短冊に要旨を書くことで、交流をスムーズにできるようにする。 ○タイマーを活用し、児童が見通しをもって学習を進められるようにする。 ◎【読】要旨をつかむことができる。(ワークシート) ○キーワードを確認しながら自分の言葉でまとめられるようにする。	3 学習課題を解決する。 (1)既習教材の「説明文の家」を参考にしながら、序論と結論の性格について確認する。 (2)序論と結論の性格を全体で考え、内容を読み取る。 【視点3】 ・初めに自力解決を行い、その後ペア学習を取り入れ学びを深める。 ・結論の内容について全員で確認し、要旨の見通しをもたせる。 (3)教材文の結論を音読する。 (4)要旨をまとめる。 ・説明文の家を基に大切な言葉を確認しながら要旨を短冊に書く。 (5)グループで話し合いをし、要旨を完成させる。 【視点3】 ・グループの交流後、もう一方のグループに自分達のグループの要旨を伝える。(交換留学) (6)要旨を全体で確認する。		3 学習課題を解決する。 (1)既習教材の「説明文の家」を参考にしながら、序論と結論の性格について確認する。 (2)教材文の結論を音読する。 (3)序論と結論の性格と要旨について自力解決を行い、その後グループで話し合う。 【視点3】 ・説明文の家を基に大切な言葉を確認しながら要旨を短冊に書く。 (4)全体で、序論と本論の性格と要旨を確認する。 ・なぜその性格になったのか理由を説明しながら要旨を発表する。 ・結論の内容と要旨との関係を意識させ整合性をもたせる。 ・全体で要旨を踏まえた上で、並行読書を行う。 (5)5年生の要旨を聞き、アドバイスをする。	○序論と結論の性格について確認する。 ○学習の進め方を確認し、間接指導に入る。 ○要旨をまとめることを確認し、教材文の題名とのつながりを考えながら読めるようにする。 ○根拠となる文を示しながら説明できるようにする。 ○タイマーを活用し、児童が見通しをもって学習を進められるようにする。 ○結論と要旨の関係に気を付けながら書けるようにする。 ○短冊に要旨を書くことで、交流をスムーズにできるようにする。 ◎【読】要旨をつかむことができる。(ワークシート) ○5年生の説明文の家を参考にしながらアドバイスをするよう指示する。	展開 35分
終末 5分	○学習を通して分かったことや、次の学習に生かしたいことを書かせる。	4 本時の振り返りをする。 5 次時の学習の内容を確認する。		4 本時の振り返りをする。 5 次時の学習の内容を確認する。	○学習を通して分かったことや、次の学習に生かしたいことを書かせる。	終末 5分

(3) 評価

B 序論と結論の性格を理解し、本文を的確に捉え、要旨をまとめている。

支援：序論・結論の性格の根拠となる表現に注目させる。
また、要旨をまとめる際、大切な言葉や結論に書かれていることに注目させる。

(3) 評価

B 序論と結論の性格を理解し、本文を的確に捉え、要旨をまとめている。

支援：序論・結論の性格の根拠となる表現に注目させる。
また、要旨をまとめる際、大切な言葉や結論に書かれていることに注目させる。

(4) 板書計画

① 序論と結論の性格を考え、要旨をつかもう。

要旨のキーワード

- ・ 和の文化
- ・ 歴史
- ・ 文化
- ・ 支える

序論・結論の性格

学習の流れ

② 序論と結論の性格を考え、要旨をつかもう。

要旨のキーワード

- ・ 未来
- ・ 町
- ・ 幸福

序論・結論の性格

学習の流れ

(補助黒板の説明文の家)

和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる

結論	本論			序論
⑬⑫⑪⑩⑨⑧⑦⑥⑤④③②①	⑮～⑫	⑪～⑦	⑥～②	①
◎ 終わりのまとめ ◎ 筆者の考え・メッセージ	和菓子を支える人々	和菓子と他の文化との関わり	和菓子の歴史	◎ 話題の提示

和の文化にどんな歴史や(他の)文化との関わりがあるのか、どんな人がそれを支えているのかを考えることで、私たちが日本の文化を受けついでいくことができる。

町の幸福論—コミュニティデザインを考える

結論	本論		序論
⑮	⑭～⑩	⑨～⑤	④～①
◎ 筆者の考え・メッセージ	未来のイメージを持つこと	住民たちの継続的・主体的な取り組み	◎ 話題の提示 ◎ 大きな問いの投げかけ

一人一人が未来の町の姿をえがき、その姿に向かいながら主体的に町作りに取り組むとき、本当に豊かな「町の幸福」が生み出される。